

第3回アメリカ研修報告（7日目）

富山中部高等学校

7月9日（土）、いよいよボストンでの研修最終日を迎えました。これまでの研修への取り組み方から判断し、先生方から班別研修実施の許可を頂くことが出来ました。天気は曇雨、最高気温18℃と研修期間で1番寒い日となりそうですが、班員1人ひとりが当事者意識を持って有意義な時間にしていくことを望みます。班に1台 緊急時用の携帯電話を配布して使用方法を確認し、万一班とはぐれてしまった場合の対応をグループ毎に再確認して出発しました。集合時間17時に遅れることなく、全力で楽しんで元気に帰って来てくれることを願います。



班別研修の様子



班別研修の様子

生徒たちはクインシーマーケット、ボストン美術館、フリーダムトレイル、ボストン茶会事件船などを事前に計画した行程をベースに訪れました。生徒達にとって想定外だったのは、地下鉄のPark St.～Kendall間で週末限定の緊急工事を実施しており、通行止めとなっております。該当区間はバスに乗り換えての移動となります。突発的な出来事にも臨機応変に対応出来る、柔軟性、判断力も班別自主研修で得て欲しい力です。

17時の集合時間には、残念ながら8班中2班の姿が少なく、残り6班は区間通行止めによるバスが渋滞に巻き込まれて5分～15分の遅刻となりました。想定していたものと違う状況だったことは事実ですが、それを考慮して訪問場所を1つ減らし、集合時間に合うように調整した班がいます。最悪のケースを想定しリスクを排除することはリーダーに不可欠なアクションです。中部生の中でも選ばれた集団であることを鑑み厳しく見れば、まだまだ自覚と責任感が足りなかったと言えます。しかし失敗から学び成長する研修です。「仕方なかった」と自分以外の何かのせいで終わらせるのであれば全く価値がありませんが、失敗をした自分の現状としっかり向き合い、そこから学びえたことを今後活かしていってもらいたいと思います。生徒達の悔しそうな表情からも、今後期待ができると思います。



班別研修の様子

夕食後は、現在ハーバード大学で医療政策学に所属されている津川友介先生にお越し頂きました。東北大学医学部を卒業後日本で臨床医として5年ほど活躍されていましたが、仕事においてたいがいのことが出来るようになり、周囲からの評価も高くなると、自身の成長が鈍くなってしまいます。Comfort zoneを良しとしない津川先生のご性分から海外に挑戦することを決意され、ハーバード公衆衛生大学院をご卒業されただけでなく、世界銀行のグループコンサルタントなど多様な経験を経て現在に到っています。輝かしい経歴をお持ちのようですが、とにかくたくさんの失敗をしてきたとおっしゃるのが印象的でした。10個の挑戦があるとすれば6つ成功すれば大成功とお考えで、失敗する前提であれば今の自分では届かない高い目標を設定して挑戦していけるというものでした。うまくいかなくても、失敗して到達した地点は挑戦していない人よりも高いというのが津川さんの考え方です。生徒達からも時間をオーバーして多くの質問が上がり、名残惜しくも座談会は終了となりました。



津川先生の講演



津川先生と集合写真

これでボストンでの研修は終わりを迎えました。班別研修の集合時間への遅刻はチームとしての意識を高め、研修開始の時とは違う仲間への思いを感じ始めていたタイミングだったため、生徒たち自身がガックリと肩を落としていました。しかし研修はまだ終わりではありません。最終日までハードスケジュールが続きますが、挽回のチャンスは沢山あります。最後の1秒まで1人ひとりが後悔なく納得のいく研修に出来るように全力でサポートして参ります。



留学生との最後の交流